4年　国語科
単元名「きょうみをもったことを中心に、しょうかいしよう」
教材名「風船でうちゅうへ」

本単元における自ら学びに向かう児童の姿

・自らの興味に沿った情報を、文章中から正しく選択することができる子

・文章を読んで感じたことや考えたことを友達に進んで紹介できる子

研究主題に迫る手だて

（１）自ら学びに向かうための工夫

○指導展開の工夫

説明文の内容が難しいため、全体で内容理解を図ってから、児童の「面白い」「興味をもった」ことを中心に要約する展開とする。読み取りが苦手な児童には、教材文中の写真をヒントに興味を引き出せるようにした。

○導入の工夫

不適切な要約文を示し「まとまりがない」「伝えたいことが分かりにくい」など児童の反応を引き出す。適切な要約には観点を統一する必要があることを意識付け、キーワード選択時の指針とする。

○ワークシートの工夫

教材文から予想される児童の興味を表に分類し、単元を通して読み取ったことを書き込めるようにする。これにより、要約時のキーワード選択がしやすくなる。

○掲示の工夫

児童と考えた学習計画を掲示し、学習の見通しをもたせ主体的に取り組めるようにする。また、要約に必要な観点を掲示することで、児童の読み取りの手助けとする。

（２）対話的に学ぶための工夫

○展開の工夫

学習の流れを①めあての確認→②発掘タイム（個人でキーワード発見）→③検討タイム（３人組で話し合い）→④共有タイム（全体確認）→⑤振り返り（言葉の精選）とする。教材との対話、他者との対話を通じて、自分の要約に使える言葉を自己調整して選択できる児童の実現を目指す。

○グループ活動の工夫

事前アンケートを基に「読み取りに自信がある児童」「興味に応じたキーワードが見付けられる児童」「読み取りに自信がない児童」の３人でグルーピングする。異なる色でキーワードに線を引くことで、重なった部分は自信をもって選択でき、異なった部分では対話が生まれ、互いに学び合える環境が実現する。

2025年11月27日

単元名：「きょうみをもったことを中心に
しょうかいしよう」

教材名：「風船でうちゅうへ」

授業者：相木　継之助

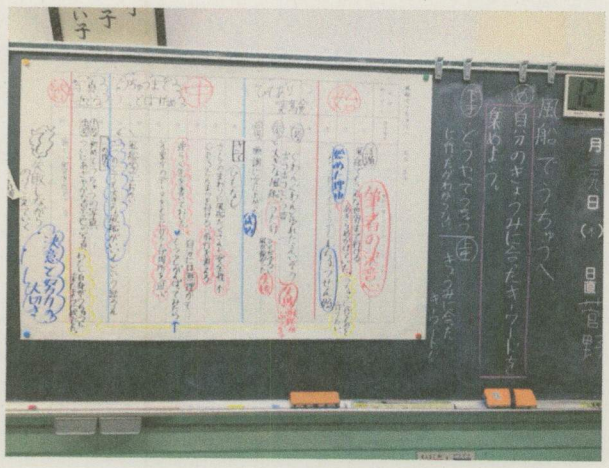
成果

視点①について

- 前時までに、ワークシートを活用して全員で文章構成を捉えるために読み取りをしたことが、児童の実態に即していた。

視点②について

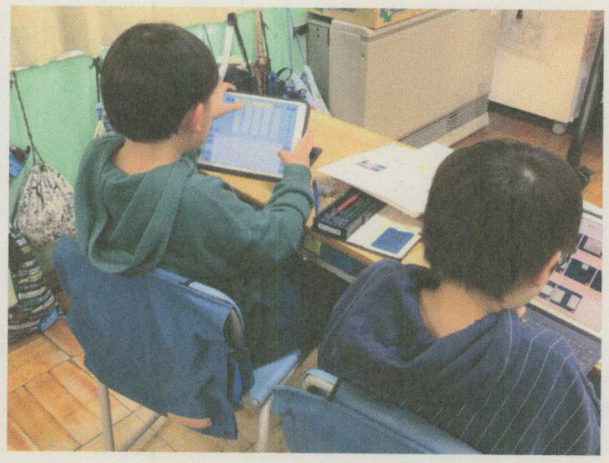
- 自分の考えを明確にもつことが難しい児童や、自分の考えに自信をもてない児童にとって、対話は考えを深める上で効果的だった。
- 発掘タイム、検討タイム、共有タイムという学習の流れを示す言葉が、児童にとって分かりやすく、活動内容が明確になった。

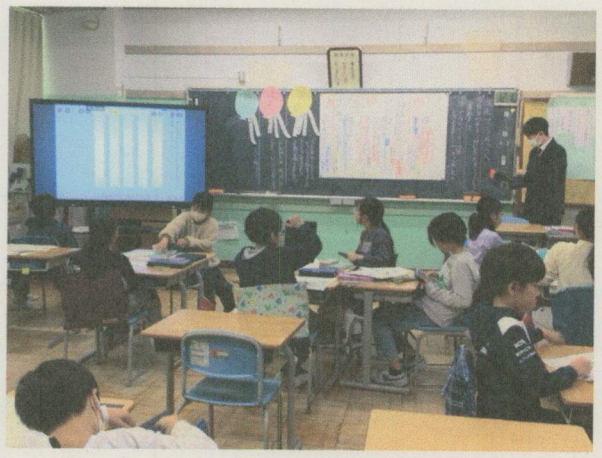


課題

視点①について

- 前時までに読み取った内容をまとめたワークシートを、本時で活用できるとよかった。教師が全体でまとめたワークシートを掲示していたので、それをもとに、各自のワークシートに立ち返る時間があってもよかった。



視点②について

- 発掘タイム、検討タイムは自分たちの興味に沿った内容で活動を行えたが、共有タイムでは自分の興味とは異なる内容を聞く必要があった。検討タイムのあとに個別で一度要約をして、キーワードが活用できるか確かめる時間としてもよかった。